

みやぎ生協

● みやぎ生協本部内に「東日本大震災 学習・資料室」がオープン！

3月5日（火）みやぎ生協の本部にある生協文化会館ウィズ内に「東日本大震災 学習・資料室」がオープンしました。

この資料室は、未曾有の被害をもたらした東日本大震災を風化させることなく、みやぎ生協が大震災に際して取り組んだことや職員の思い・行動などを後世に伝えていく為に設置しました。入館料は無料で、約40坪の敷地内に震災関連の品を展示・

保管し、研修や学習等にご活用いただける施設となっています。

室内には震災に関する各種映像や資料、関連本や、全国各地の生協からいただいた応援メッセージや色紙などを展示しています。シアタールームも設置しており、東日本大震災関連のDVDや、震災の混乱の中、みやぎ生協がどのような動きをしたのかをまとめた記



録を映像で視聴できます。

また、被災者の方々の手作りの販売も行っています。ぜひ足をお運びください。

（総務部 稲葉勝美）

生協あいコープみやぎ

● 福島原発事故を忘れない！女川原発の再稼働を許さない！ 3・16 みやぎアクション

3月16日（土）仙台で「福島原発事故を忘れない！女川原発の再稼働を許さない！3・16 みやぎアクション」が、昼夜2部構成で開催され、宮城県生協連、あいコープみやぎをはじめ、54団体110個人が賛同・参加しました。



アピール文の読みあげを行いました。

昼の部は、メッセージと歌に脱原発アイドルの藤波心さんを迎え、優しいポップな雰囲気の中で、旧鹿島台町長の鹿野文永さん、放射能から角田を守る会の池田匡優さん、脱原発に取り組む労働組合の代表や弁護士さんら宮城県内の様々な方の発言がありました。その後のデモでは、子どもを含め約700人が元気に、定禅寺通～一番町～広瀬通を歩き、女川原発再稼働反対をアピールしました。

夜の部は、「福島に寄り添い、福島を忘れない！みやぎの集い」と題し、前福島県知事佐藤栄佐久さんの特別講演と福島か



ら3人の方々が参加し、シンポジウムが開かれました。

2年経っても福島原発事故はまったく収束しておらず、被曝の問題は解決していません。自然災害は止められませんが、原発は私たちの手で止められます。皆さんとともにがんばりたいと思います。

（理事 鈴木智子）

食のみやぎ復興ネットワーク

● みんなの思いをのせた「なたねプロジェクト開発商品」

震災から2年が経過しました。食のみやぎ復興ネットワークでは、これまで被災地域の復旧復興の動きを支えるために、いち早い生産の再開（仙台白菜・牡蛎・なたね）や、新しい宮城の特産品づくり（秘伝豆・あおばの恋小麦等）に取り組み、様々な商品を開発してきました。

2013年春、被災した岩沼の農地に塩害に強い「なたね」を植えることで、生産者を支え一日も早い農地の復旧を目指して取り組んできた「なたねプロジェクト」の商品がいっせいに発売

されました。なたねを压榨しただけの一番搾りなたね油の昔懐かしい香りと黄金色に輝く姿には、地域の復興を願う方々の思いが込められています。また、このなたね油を原料にした和風ドレッシングは、誰にでも食べやすく親しみやすい味に仕上げました。それぞれ、みやぎ生協の限定21店舗での扱いになります。どうぞお早めにご利用下さい。

（みやぎ生協店舗商品部・食のみやぎ復興ネットワーク事務局 藤田孝）



和風ドレッシング150ml(298円)

なたね油135g(500円)

〈みやぎ生協販売店舗〉

大代、黒松、桜ヶ丘、富沢、白石、幸町、国見ヶ丘、岩沼、柳生、石巻大橋、高砂駅前、明石台、亘理、高森、愛子、名取西、大河原、南光台、岩切、八木山、蛇田

大学生協東北事業連合

● 「東北地区大学生協職員の手記 東日本大震災-そのとき、その後、これから-」

大学生協東北事業連合では、3月11日（月）に、東北地区大学生協職員の震災手記（電子ブック）を発行しました。

「東日本大震災における大学生協職員の対応と教訓を手記の形で後世に残したい」との思いから、板垣乙未生理事長が編集長を務められました。手記の執筆者は32人のぼり、東北ブロックの会員生協専務理事（前現）および東北事業連合の幹部職員被災学生の最も多かった東北学院大生協からは、全正規嘱託職

員に寄稿頂いています。また震災直後に、ボランティアや共済活動を支援頂いた全国職員からも寄稿頂きました。

本手記は、大学教職員学生組合員・生協職員（家族）の安否確認や安全確保などの大災害時固有の対応のほか、被災店舗・食堂の営業再開、新学期事業の再構築、被災学生支援と共済活動、被災地へのボランティア活動や復興支援活動など、内容は多岐にわたります。

大学生協東北事業連合のホー



ムページに掲載されています。ぜひ、ご一読いただきますようよろしくお願いいたします。

（常務理事 峰田優一）

宮城県高齢者生協

● 「震災体験と復興を語り伝えるつどい」

震災から丸2年の3月10日（日）石巻市の“こ～ぷのお家いしのまき”を会場に、「震災体験と復興を語り伝えるつどい」が開催され140人が参加しました。

被災の大きかった石巻市渡波地区の皆さんが、郷土の復興を願って「渡波獅子風流（ししふり）」を勇壮に舞い、日本高齢協連合会市川英彦会長の「この震災は、毎日の暮らし方、生き方、社会のあり方の転換を厳しく求めている。」とのあいさつで始まりました。宮城高齢協の

永野三男理事長は「2年経って前に進んでいる方、疲れ切っている方、語りたいたいという方、被災者の中に様々な変化が生まれている。被災地も原発事故も、戻りたくても戻れないという人が圧倒的。これをどうするか、私達は真剣に考えなければならない。」と問題提起。

その後、被災地の花の復興支援ハガキづくりの活動、女川町のトレーラーハウス宿泊施設の取り組み、仮設住宅自治会の体験、こ～ぷのお家いしのまきでの継続した被災者支援の取り組



津波で流された道具を丁寧に繕い復活させた渡波獅子風流で開幕

み、福島県小高町の原発事故被災後の現状と今後など、5人の方々が被災体験を語りました。

日本高齢協連合会ははじめ全国各地から駆けつけた参加者も、「郷土の現在・過去そして未来へ」と思いをはせた一日となりました。

（専務理事 山田栄作）